

ふれあい

平成22年 5月 第290号

大代地区コミュニティ推進協議会
〈広報部〉

事務局：大代地区公民館
☎364-8442

〈掲載目次〉

- 大津波警報と避難指示 1
- 大代防犯協会からのお知らせ 2
- 貞山運河周辺清掃のお知らせ 2
- 父を尋ねて 2

- 大代の歩み(二十六) 3
- ふれあい短歌(俳匠特集) 4
- ふれあい俳句 4
- 大代地区人口 4

大津波警報と避難指示

大代西町内会長 伊藤 要

去る二月二十八日午後一時、大津波警報による避難指示が大代地区を始め、多賀城市津波避難対象地域4、463世帯11、435人に出されました。

これは南米チリで二十七日午前三時三十四分(日本時間午後三時三十四分)頃マグニチュード8・8の巨大地震が起きたからです。震源の深さは約35kmといわれております。

マグニチュード8・8の地震のエネルギーは阪神大震災(マグニチュード7・3)の約700倍に相当するといわれています。

気象庁は二十八日午前九時三十三分に青森県から宮城県にかけての太平洋側に大津波警報(1〜3m)を発令しました。テレビ・ラジオで大津波警報を繰り返し報道しているのです。この大代一丁目地区は津波浸水危険地域に指定されており、仙台港に直結しているので1960年のチリ地震津波(マグニチュード9・5のチリ地震で、地震による津波が約二十時間後の五月二十四日早朝、日本の太平洋沿岸に到達し、津波の高さは三陸沿岸で5〜6mを記録しました。)で県内の沿岸部で大きな被害が出たことが思い出

されました。

仙台港の建設により砂押川が直接太平洋に流れることにより、大きく地形が変わったために、大津波が予想どおり来襲した場合、想像もつかない程大災害になる恐れがあります。

大代西区自主防災会として大代西区災害対策本部を設置すべく関係者に連絡いたしました。午前十一時頃には体制が整い今後の対応について協議中、大代駐在所長が対策本部である大代西区集会所に来て、この場所が一番危険である旨伝えられ、直ちに避難するよう指示を受け、今後は多賀城市災害対策本部の指示どおり行動する事を申し合わせ十二時十五分大代西区災害対策本部を解散しました。

仙台港に第一波到達予定時刻には緊急津波避難ビルに指定されている大代西区の小野屋ホテルに要援護者はじめ近隣の方々が避難し、午後二時三十分頃には41名の方が小野屋ホテルのご好意で大広間が寒いので客室を解放してもらい避難いたしました。

午後三時四十分頃仙台港で9.0cmの津波を観測したとテレビで報道されると、これが最高水位と思いきい安心したのか、一人二人と避難所をあとにして帰宅する方が出てきました。午後四時十五分頃、

多賀城市災害対策本部から避難者数の確認があり、午後四時五十分に乾パンとお茶が配布され、午後五時には避難者全員が小野屋ホテル避難所から帰宅しました。午後九時頃にかけて仙台港で1・1mを観測し満潮と重なったものの、心配された浸水被害は避けられました。また、緊急避難所開設と同時に避難者を受け入れ、客室まで開放していただいた小野屋ホテルさんに感謝いたします。

今回の大津波警報で津波到達まで時間的余裕がありました。近い将来発生が確実視されている宮城県沖地震、特に「日本海溝・千島海溝周辺で発生する海溝型地震」に伴う津波については津波の最高水位2・5m、最高水位到達時間約3時間18分と多賀城市で公表(平成21年2月号ふれあい第275号に掲載)しておりますが、今回の大津波警報で蒲生海岸を切り開いた仙台港で午後八時五十二分に1・1mの津波を観測したと報道がありました。ちなみに南三陸町と同等の水位の津波が押し寄せたことになりました。

宮城県沖地震に備え、宮城県は津波の到達時間や最高水位、浸水面積などを複数の想定で試算していると聞いておりますが、地域の安全・安心のために早急に

公表をお願いいたします。

大代防犯協会からのお知らせ

大代防犯協会 伊藤 一郎

左記の日時により平成二十二年度の総会を開催いたします。大代地区全世帯の方々が会員でありますので、多くの方々の参加をお願いいたします。

記

一日 時 五月十三日(木)

午後七時から

二 会 場 大代地区公民館会議室

※終了後、駐在所署員による講話を予定しております。

大代地区内で寸借詐欺の実害がありました。注意してください。

また、東小学校より不審者情報がありました。四月十八日(日)午後三時頃に大代二丁目公園で遊んでいた女子児童が自転車に乗った男性(三十歳位)に追いかけられ、自宅に逃げ込んだそうです。地域の皆様も注意して見守ってください。

貞山運河周辺清掃のお知らせ

大代地区コミュニティ環境美化部

一日 時 五月二十三日(日)

午前六時から(一時間程度)

二 集合場所 大代地区公民館玄関前

※雨天の場合は中止(小雨決行)

ゴミ拾い用のゴミ袋として、レジ袋を一人三枚持参して参加してください。

大代地区の皆様のご協力をお願いします。

父を尋ねて

大代南区 後藤 清一

前回に続き、墓参団アムール班の団長に届いたグラウジャーさんより愛する蜂谷さんへの手紙に「時々は思い出してくださいロシアを、そしてクログレス村を。私達は思いもよらぬ人生の出会いをしました。一切の責任は戦争にあるのです。貴方が再び肉親の愛情に包まれて日本にいるという嬉しい思いで私は生きて行きます。私達はこの様に運命づけられていたのです。三七年余りの年月を彼と暮らせたこと、捧げた愛が無駄ではなかったこと、私はこの喜びで生きて行きます。(本文より)

各地での慰霊祭

八月二十五日快晴、今日も暑く気温は30度近い。今回で九度目の墓参りである。香をたき、道中の無事を願い早朝仙台を発ち新潟空港に集結した訪問団は、ウラジオ航空810便で定刻十六時四十分ハバロフスクへ飛ぶ。空港では新型インフルエンザ流行地の日本からというこ

とで待機させられ、各人体温チェックを受け、通関、入国審査を受ける。空港には通訳ガイドのニコライさんが出迎えていた。俺達アムール班はホテルを出て再度空港に向かい機を乗り換え。いかに年代物という感じの双発プロペラ機が待っていた。大丈夫だろうか、保険に入って来て良かったと冗談も出る。珍しく定刻十時飛び立つ。眼下にアムールの大河が雄大に流れている。十一時四十分、うら淋しい空港に無事到着。これから行動を共にしてもらおう現地ガイドのミハイルさんが待っていた。まずホテルに向かう。昼食後市内で生花を求め街を出て二十㎞程で森林地帯に入る。この界限で唯一という墓地があった。以前は広大な整地された墓所であったが、近年大半はロシア人墓地に略奪され板塀で囲われた一角に全抑協が建立した石碑が一つあった。不本意ながらここを中心に祭壇を急造、日の丸及び協会旗を掲げ、各自持参の供物を供し同行の僧侶の読経を願い開式する。途端雷鳴と共に激しい雨となり、まるで眠っている死者の怨念が呼び覚まされた様に感じた。僧侶もその怨念を鎮めるかの様に読経が一段と大きく響く。

雨も止み団長の弔辞、遺族の追悼の辞は姉妹が上げる。私たちの父、弘は享年二十八歳、ハンサムで軍装で大きな額に納まり母親と並んでいる。あれは昭和四十年の春頃、役場の人が公報ですと玄関に立たれた母が応対に出る。ご主人戦病死の公報ですと。母は、なに!!死んだ、嘘だ、そんなものいらん、持ち帰ってくれ、と追い帰したのです。父は一度目は元気に帰郷し二度目の出征での時は、今度は帰って来れないだろう。弘子、生まれてくる子共々頼む、と母に告げて征ったそう。自身そんな予感がしたのだろうか。今回図らずも全抑協の墓参りの旅募集を知り、父終焉の地シベリアに行く。墓地が不明でも父の近くに立てるだけでもとの思いで「妹と来たのよ父さん」。父の末弟も、一緒に行きたいが、と心は焦るも九十歳、叔父も元軍人で体には当時の銃弾が二発も入っている為、せめて線香をと託された。・・・ 続く

大代の歩み (二十六)

大代南区 渡邊 巖

天保八(一八三七)年八月にも二度に亘って洪水があり、一〇月一二日には津波が襲った。その翌年の天保九年二月(旧暦)にも大風雨が降り、市川・南宮・山

王・岩切・高橋・八幡・笠神など七北田川沿いの村々がまた海のようになった。この時には湊浜・菖蒲田から出漁した漁船も遭難して一隻も帰港できなかつたという。

この年には更に八月にも大雨があつて、三年続きの冷害であつた。

浜もまた、不漁で大代に着く漁舟もなく、魚を運ぶ駄賃仕事も途絶えてしまつた。

既述したように大代村船場はその地域的特性から農業以外の生業に対する依存度が高かつたのであるが、その事が時化、潮流異変・ヤマセ等による不漁や凶作と相まつて飢饉の被害を大きくし、天保八年の死亡者五五名中五割以上の二十九名の死亡者が大代村に集中している。

これに対しては藩も農民自身も被害軽減のための努力を行い、藩の政策としては他藩産米の買い入れ、郡の相互間における米穀移動制限の緩和による施米や施粥、藩内に土木工事を起こして、飢餓による窮民を人足に雇って米を支給するなど、農民もまた種初の水漬け、苗代の深水管理、稲の品種も冷害に対応出来るものを選ぶ等、稲作技術への関心を深めて行った。

この様な農民に対し幕府は経世済民の

手段として、生産者であり社会基盤の構成者としての社会的身分も表向きは武士階級の次(士農工商)に置いた。

しかし、実際は『百姓は死なぬ程に』と遺した登米伊達氏の家老秋山某の記述は、当時の農民に対する支配者層の考え方と統制の厳しさを如実に示したもので、こうした人間社会のあり方が自然の猛威を増加させる結果となり、多数の餓死者を発生させたのかもしれない。

続く

ふれあい短歌 (俳匠特集)

大代西区 藤田 遊子

笠被り 草鞋はきたる 蕉翁の

五回の旅の 遺句は一仟

生物を滑稽にとらへし 小林一茶

遺せし秀句は 二万を越ゆる

絵の如く 自然を詠みし 与謝蕪村

遺句は三千 地球を詠ふ

奇抜なる 俳句遺せし 龍之介

三十五歳の 命断ちけり

窮極は 命となりて 現役の

兜太の 秀句 五仟を越ゆる

ふれあい俳句

大代西区 松浦 富男

食わぬのに 吐き気止まらず

手の冷たさよ

花冷や 三日の命 消えかけて

『古雛の 胸の膨み 艶なりき』

(初回投稿 平成十三年四月号)

故松浦富男様には、平成二十二年四月十二日、享年九十歳の天寿を全うされ逝去致しました。

故松浦富男様には、平成十三年四月号より九年間の永きに亘り「ふれあい」に俳句を投稿していただきありがとうございます。心から感謝申し上げます。

茲に深く哀悼の意を表して、ご冥福を祈念いたします。

広報部長 佐藤 聰子

笠神西区 本郷 勝子

句を待つて さくら待ち侘びて

計報聴く

花冷の 帰っていいよが 耳に残り

句友逝く 雨降りやまず 春の宵

大代地区人口

行政区	世帯	男性	女性	男女合計
大代東区	336	476	496	972
大代中区	364	447	449	896
大代西区	310	437	432	869
大代北区	122	184	191	375
大代南区	621	845	842	1687
合計	1753	2389	2410	4799

平成22年3月31日現在

アバターも 観九十才と
 思えねど 君子蘭
 嬰兒の 薄紅のほほ さくらかな
 八幡 森 季子
 なごり雪 庭めざめさせ 失せりけり
 唐突に 日ざしの中を 春の雪
 子の笑顔 見たさに 今日も 草団子
 干し竿を 無用となして 黄砂降る
 採らぬまま 呆けにけりな 露の藎